



三箇小学校



最後の卒業式

Tsunan-Town

2010年4月20日発行

 議会だより

つなまち

No.178
2010.4.20 APRIL

3月定例会: 3/2~3/26

町長施政方針	②③
平成22年度 一般会計・特別会計	④⑤
総括質疑	⑥
自由質疑	⑦
討論	⑧
平成21年度 補正予算	⑨
一般質問	⑩~⑬
条例改正・請願・陳情・意見書・人事	⑭
シリーズ私もひと言	⑯

発行：新潟県津南町議会 責任者：議長 吉野 徹
町のホームページでも議会だよりをご覧になれます。



津南原小学校

今年もプレミアム商品券を助成 住宅改修補助も町単独事業で実施

り組みに期待するものであります。森林整備では「豊かで美しい森林整備事業」の継続と「きのこ王国支援事業」を活用し、施設整備の実施、有利販売の推進に努めます。

移住・定住交流事業では、昨年の中学生を中心とした受入れ実績は7校6回述べ537名でした。子どもたちには、貴重な体験として、さらに充実していきたいと思えます。又、団塊世代などの移住受入れには、ホームページでのPR、移住体験の受け入れにも取り組みます。

商工関係では、つなぎ資金の手当、セーフティネット資金等に対応します。信用保証料の補助についても万全を期します。商業関係では、本年も引き続きプレミアム商品券の助成を図り、地元商店の支援をします。

観光では、第4回大地の芸術祭で大きな経済効果がありました。本年も広域圏での観光キャンペーンに積極的に参加し誘客を図ります。又、広大な自然環境を強くPRし、ニューグリーンピア津南、マウンテンパーク津南、秋山郷等の観光施設への誘客アップを観光協会とタイアップし進めます。

建設関係では、念願の大倉トンネルが貫通しました。23年度の完成を目指し大幅な予算確保に努力いたします。国道405号線ほか雪崩危険箇所対策を継続し、各地道路拡幅改良工事の継続と大割



「最後の施政方針」を述べる小林町長

平成22年町長施政方針

大倉トンネル貫通23年開通へ

国内総不況の中、国では地域活性化・雇用等臨時特例費9、850億円を創設しました。又、実質交付税は17.3%増となっております。町の予算は農林水産業費及び公債費の減もあり本年度一般会計は57億4,200万円(0.49%減)となりました。

特別会計では、簡易水道及び病院事業会計が増となり53億5,709万円(1.12%増)、予算総額110億9,909万円(対前年比0.28%増)となりました。

財政は健全性を保ちつつ地域経済の進展・住民負担の軽減を柱に予算編成を行いました。主な施策は、総務部門では地域公共交通実証運行を全町で実施。またテレビ難視聴地域解消対策事業、消防・防災対策、防火水槽設置、移動用無線機を整備します。

環境衛生関係では、地球温暖化防止などの啓発を実施します。

福祉保健関係では、感染症予防対策はもとより、「食育」と「運動・体力づくり」事業や活動を支援し、町民の健康長寿の町づくりを進めます。

子育て支援、少子化対策では中学校卒業まで医療費助成し、保護者の負担軽減を図ります。又、子ども手当が中学校終了までの児童・

生徒を対象に1人月額13,000円が支給され、本年度は児童手当との併給となります。保育園については、保育士の確保に努め特別支援対策をより充実いたします。

介護保険関係では、認知症予防対策等の支援をします。国民健康保険では、大きな決断として一般会計からの繰入れ措置により保険料の引き上げを行いません。

農林関係では、転作面積の達成と魚沼コシヒカリの品質向上と販売努力が重要です。又、畑作物は高い評価を得ていますが見合った価格となるよう、津南町農林産物販売会議を設立し、津南野菜のブランド化を進めます。津南町森林組合の新食品工場での地場産調達率の向上により、新たな雇用拡大と経済効果が期待されます。津南町農業公社においては、野菜栽培の実験事業と輪作体系の取り組みを核と進めます。畜産では、豚肉のブランド化、牛乳の販売戦略、飼料の自給率向上の意味合いからも飼料用米栽培も検討します。又、女性農業者グループの直販や農産加工、地産地消の推進や郷土料理集(全戸配布予定)を高く評価し今後も活発な取り組みに期待します。農地関係では、事業費確保に努め農業委員会では農地の流動化対策に力を入れ、取

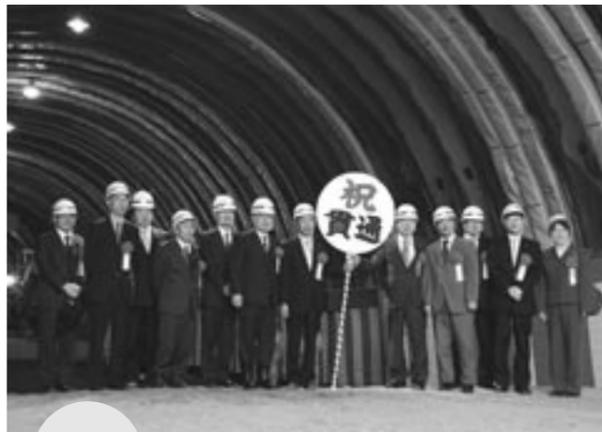
野地内の歩道整備の早期事業採択を要望します。河川・砂防関係では、大門川砂防堰堤工事の継続、釜掘川貝坂地内橋梁架替え工事の着手を予定しています。又、芦ヶ崎地内石黒川の砂防堰堤にも取り組みます。その他、急傾斜地の崩落防止対策事業、治山事業の継続、町道関係では地域活性化臨時交付金により、前年度を上回る建設予算を確保しました。防雪体制整備では、克雪住まいづくり支援事業で住宅の克雪化を推進します。また、町営住宅は美雪町烏帽子住宅建て替え、住宅改修補助事業は、町単独事業で実施します。

教育委員会関係では、三箇小、津南原小の津南小への統合がスムーズに行われるように、教師、町任用講師を異動することサポートし、さらに増員し不登校児童・生徒へ対応します。生涯学習関係では文化センターのエレベーターが利用され、長生学園などの活動の輪がより広がるよう期待します。また、本年度から5月3日に成人式を実施します。文化財、古民家移築検討に調査費を計上します。

病院事業では、生活習慣病の管理、救急疾患の予防、終末期医療に配慮し、利用しやすい病院づくりを進める予定です。また、町民の健康を高めるために疫学調査を継続的に取り組みます。



交流事業での楽しいひととき



大倉トンネルの貫通式 一日も早い完成が望まれる

平成22年度予算

一般会計

平成22年3月定例会が3月2日から26日までの会期で開催されました。町長の施政方針、条例改正、21年度の補正予算、22年度一般会計・特別会計の当初予算を審議し原案ごおり可決しました。

57億4,200万円

(前年57億7,000万円)

平成22年度一般会計予算は前年度より2,800万円の減となりました。

歳入については昨年と同様景気低迷により、町税が2,936万円、国庫支出金が1億1,412万円の減となりましたが、地方交付税8,000万円の増と見込んでいます。

歳出については森林組合の野菜等処理加工場が完成となり農林水産業費1億9,684万円の減となりました。



津南を背負う若者の成人式が5月3日に



22年度の主な事業

本格実証運行運転はじまる

昨年より津南原線で運行テストを行ってききましたが、本年より新たに日出山線、大赤沢線、大谷内線が始まり4路線となります。

事業費 1,637万円

子育て支援策として、子ども手当支給はじまる

中学生まで子ども1人に月額13,000円が4月からスタート6月から支給されます。

事業費1億4,287万円(4月から23年1月分まで)

昨年に続いて緊急雇用対策の導入

ふるさと雇用、緊急雇用、重点分野雇用の各事業が雇用対策の一環として16名の短期雇用(1年以内)が行われます。森林組合、津南醸造、遺跡整理、林道整備など。

事業費2,772万円

津南病院補助金

病院運営費、医師手当などの補助金となります。

事業費2億170万円

中学生まで入院通院とも医療費無料

今までは小学校6年生までが対象でしたが中学卒業まで所得制限なしで助成となります。

事業費1,700万円(120名ほど)



子供たちの笑顔は津南の宝物

中越復興基金での事業

津南物産館での農産物直売所整備やユリ切花施設の整備などに、事業費5,347万円

観光施設整備

ひまわり広場駐車場に砂利碎石を敷き、雨天時などの駐車場確保が可能となります。事業費285万円

町道改良舗装工事等

和津久利線100m延長。他6路線で行われます。事業費8,400万円

浄化槽設置事業補助金

合併浄化槽設置時に9割の補助金が助成されます。今年は6基分。

住宅改修補助金

昨年好評だった住宅の改修や下水道つなぎ込み整備などに1件につき上限10万円の補助金が引き続き出ます。100件の予定。事業費1,000万円

町営住宅1棟建設

昨年に続き老朽化した美雪町の町営住宅の建て替えを予定しています。4戸建て1棟。事業費9,365万円

冬期集落保安要員報酬

地域から強い要望があった冬期保安要員の集落が新たに2集落増え6集落となります。事業費379万円

公民館費

成人式が今年より5月3日に行われます。消耗品など。事業費167万円



山間地の大雪は生活を脅かす

特別会計

53億5,709万円

(前年比5,934万円の増)

特別会計	予算額	前年
国民健康	10億8,307万円	10億3,356万円
老人保健	77万円	73万円
後期高齢	1億1,933万円	1億2,312万円
介護保険	12億5,855万円	12億5,409万円
簡易水道	2億1,621万円	1億2,037万円
下水道事業	3億7,921万円	4億8,939万円
農集排水	2億8,424万円	2億9,100万円
病院事業	20億1,571万円	19億8,549万円
合計	53億5,709万円	52億9,775万円

議案審議

3月16日、予算案に対し自由質疑を行いました。
その一部を掲載します。

自由質疑



これで3階まで楽に上がれます(文化センター)

問 財政の厳しい中での新年度予算であるが、町税の滞納と収納状況はどうか。

答 過年度分の滞納も相当あり収納が進んでいない。町内においての保険料とか下水道費とか滞納者の情報の共有化を図る。21年より県と市町村による徴収機構に参加し、県と町職員により滞納の圧縮と徴収技術の向上を図りながら収納に努めたい。

町税の滞納と収納状況は

津南病院の今後の対応について

高橋孝男 議員

問 安心・安全のため津南病院の役割は大きい。石川院長が努力している予防医療、疫学調査は高く評価できる。今後とも力を入れ医療圏を広めようとした時に現大学との連携は更に広まるか何う。

町長 疫学調査を開始し19年8月内科常勤医師1名、4月から1名、非常勤医師の継続が確定。慈恵医大と連携し臨床研修も6月、10月と実施。地域医療の面から本町に学生を受入れて今後福祉、医療、保健の一元化と町は大学と連携強化を図る。

生活できる賃金に引き上げるべき

藤ノ木浩子 議員

問 非正規雇用の拡大を見直すことが、未来ある若者にとって重要だ。役場内でも低賃金で働く臨時職員が増えているが、生活できる賃金に引き上げるべきではないか何う。

町長 22年度は臨時職員(保

育士、調理員、用務員、看護師)の賃金単価を引き上げた。生活保護基準より低いというが、地域の実態を考慮している。

6次産業活性化で津南ブランドを

藤木正喜 議員

問 農地開発20年間に578億円の投資をし、一般会計20年間の投資額は233億円、農業販売額は20年間、45億5000万円と横ばいだが農商工連携の具体策は。

町長 ブランド化の有利販売で販売額を伸ばす。津南町農林産物販売会議を設立し情報共有化しながら進めていく。

問 病院運営費に1.5億円であるが、20年間での補助金は36億円、津南病院のあり方について議論すべきではないか。

町長 安易に金を出しているわけではない。収支バランスを考慮している。

五百万石の作付け推進を図る農業政策は

根津勝幸 議員

問 町内2社の酒蔵があり、津南産万石が不足している。津南醸造設立当初の趣旨に基づき、五百万石の作付けを推進する農業政策を図れないか。

町長 今日の時代背景もあって、魚沼米も低迷し、主要米魚沼コシヒカリの価格差もなくなってきた。JAを中心として検討される課題であり、町としても支援して行かなければと考える。

町の公共交通体制の経費節減できないか

大平謙一 議員

問 町の公共交通体制は複雑で経費も多大で、住民は利用しにくい。解決方法はないか。

総務課長 21年度の収支見込と22年の収支見込は520万ほど改善される。運行本数も格段に増え、運賃収入も増える見込である。定期バスの運行には路線によってデマンド型を取り入れ効率を計る。実証運行はあと2年続ける。

農業と克雪の今後の方向性をどう望むか

滝沢茂光 議員

問 除雪路線の拡大で冬期間の営農活動も活発にし、克雪も国道405号はもとより所平地内、芦ヶ崎地区の雪崩防止対策は大きな安心、安全をもたらす高評価だが、今後どうあるべきか何う。

町長 先進地視察や研修を通じて、野菜農家、花卉農家も力をつけてきた。今後もこの広大な畑が活用され、国道405号の更なる克雪対策を望む。



便利に使う乗り合いタクシー

観光費の施設整備工事とは

問 竜ヶ窪温泉のポンプ入れ替えという内容であるが、内容について何う。

答 温泉の汲み上げ湯量が当初の200リットルから50リットルに減っている。7.5KWのポンプと水中ケーブルの入れ替えで1千万円の経費である。

雇用形態が変わったが

問 町職員の雇用が個人委託から臨時職員採用となったが、人数と契約内容はどうか。

答 総計人数の把握はできていないが、100人を少し超えるものと思う。役場事務臨時職員だと5ヶ月雇用して次の1ヶ月は17日を日々雇用とし、次に5ヶ月雇用し、1ヶ月完全に雇用なしということ。次年度再雇用するという仕組みである。学校で働く調理員とか用務員については夏休みがあり、この期間雇用継続なしとなる。保育園については休みが無いので1ヶ月間17日日々雇用という形をとる。

クロカコンコース委託料について

問 クロカコンコース等施設維持管理委託料の400万円の中身とクロカコンコースの修繕とは何か。

答 クロカコンコース等管理委託料として当初160万円の見積もりで2年行ったが、周辺の刈り払い、コース付け等再見積もりをした結果400万円となった。修繕についてはクロカコンコースより雪解け水が田んぼに入るところがあるので、U字溝を設置する。

農産物直売所建設の内容は

問 物産館に農産物直売所が建設されるということだが、大きさとかどの様な建物で誰が管理するのか。

答 地域特産品交流支援事業の補助金で建設する。「百姓万歳の会」という事業主体が行う。物産館の敷地内に別棟で建設。木造平屋建て、間口7.3m、長さ20mで145平方メートル。3分の1が作業場、3分の2を直売所として利用する。管理は同会とフジミヤも入った形で共同管理となる。

子供手当について

問 子供手当について本年1億4,287万円。児童手当と併せて支給ということ。1億5,000万円の支援が実施されるがこれについてどう思われるか。

答 子供手当が支給されることとなった。子育て支援は今後大きな課題である。しかし、各市町村に一括させて市町村の裁量で子育て支援をするのがいいのではないか。豪雪地帯にあつては子供たちがより元気で保育園に通えるようにとか、児童の対応なり、市町村にある部分委託するのがあるのではと考える。



放課後の子供支援事業「この指と一まれ！」

施政方針。予算を問う



住民の安心のより処、町立津南病院

21年度一般会計補正予算

景気対策に伴う普通交付税、特別交付税や地域活性化・きめ細かな臨時交付金及び農山漁村活性化プロジェクト交付金等の増額に関する大幅な補正予算（5億5,947万円の増額で総額69億2,406万円）が審議され賛成多数で可決された。

歳入		歳出	
地方交付税	4億3,506万円	議会費	3万円
国庫支出金	1億5,237万円	総務費	1億7,533万円
県支出金	373万円	民生費	1億1,924万円
寄付金	319万円	衛生費	1億6,633万円
繰入金	△8,600万円	農林水産業費	2,498万円
繰越金	2,669万円	商工費	526万円
諸収入	5,223万円	土木費	4,176万円
町債	△2,780万円	消防費	304万円
		教育費	2,351万円

主な補正内容	
●総務費	財政調整基金積立 1億5,389万円
●民生費	国民健康保険特別会計積立 1億0,855万円
●衛生費	新型インフルエンザ予防接種減 △1,631万円
●農林水産業費	林業、林道整備費増 1,459万円
●商工費	大地の芸術祭負担金増 461万円
●土木費	街灯(LED)交換設置工事費 500万円
●消防費	防火水槽設置費負担金増 304万円
●社会教育費	文化センター修繕費 951万円
●病院費	病院運営費補助増 1億5,000万円 施設維持補修費補助金増 3,120万円

21年度特別会計補正予算	
●国民健康保険会計	総額 11億6,357万円 補正額 36万円
●介護保険会計	総額 13億5,690万円 補正額 9万円
●簡易水道会計	総額 1億2,964万円 補正額 928万円
●下水道事業会計	総額 5億1,652万円 補正額 △546万円
●農業集落排水事業会計	総額 2億8,786万円 補正額 21万円
●病院事業会計	総額 19億9,776万円 補正額 352万円

討論

平成22年度一般会計、特別会計に対する討論を掲載します。

一般会計



「政治を変えたい」という願いに込めるべく、町政を前進させることと、町民の暮らしをどう守るかが求められている。医療構造改革のなかで町立病院を維持、存続してきたことを評価し、一般会計繰入れで国保料を据え置いた。子どもの医療費助成は、中学卒業まで拡充し前進させた。

賛成討論 藤ノ木浩子

国は地域の活性化策として地域主権を尊重し、小さな市町村に手厚く交付税を支援するなか、今まで通りの予算配分である。農業公社をはじめマウンテンパークなど公有施設への多額な委託料。津南病院に対して毎年2〜3億円の補助金がありながら議論も無い予算配分はやる気の無さを現している。

反対討論 藤ノ木正喜



中学生まで拡充された医療費助成

賛成討論 草津 進

新たな施策は新町長に託さなければならぬ。22年度予算。まずは健全財政を保ち町民一人一人が安心して暮らすことのできる負担軽減が柱となっている。町民の健康、長寿の支援、将来を担う子どもたちへの応援、少子化対策、子育て支援などバランスのとれた22年度予算に賛成とする。

介護保険特別会計



反対討論 藤ノ木浩子

介護保険は、社会保障の削減から拡充へ政策転換を国に求め、安心できる制度への改革が必要だ。特に特養待機者は約4百人。特養増設は待たなしの課題である。また利用者への負担の重さは、介護を受ける上で大きな障害だ。利用料軽減のしくみを充実するよう、国に求めるべきだ。

病院事業会計



賛成討論 根津 勝幸

町立病院は残さなければならぬという小林町政のもとに、22年度事業予算が示された。全国で医師、看護師不足の中、常勤医師6名看護師53名非常勤医師40数名と全て満足と行かなくても、大学病院並みの医師団である。合併で町の病院が消えた所もある。維持存続の努力を認め賛成する。

小林町政最後の予算編成の重点は

町長・地域経済の進展、安全、安心の生活である

草津 進 議員

バトンタッチする 予算の中身は

問 20年の歴史に終止符を打つ小林町政、最後の予算概要の重点について

町長 町民の方々が当たり前の生活ができること、これを基本命題とし、住民の負担軽減、また地域経済の進展、安全、安心の生活ができる、そのようなことに配慮した。

問 新町政への引継ぎの中で一番に継続してもらわなければならないことは。

町長 町立津南病院の継続である。安心して生活を営む大きな拠点と位置付け今後も行政の責任として守っていただきたい。継続の願いである。

問 21年度をもって閉校となる三箇小学校、津南原小学校の跡地利用は。

町長 跡地利用については、いろいろ打診をいただいている団体もある。地域においては跡地利用も含めた地域活性化検討委員会を立ち上げる。地域の皆さんも含めて今後検討していかねばならない。



今年マウンテンパーク津南で行われた町民スキー大会

マウンテンパーク津南の 今後について

問 「任期中はマウンテンパークの火は消さない」という強い意の元で継続運営がなされている。新しい町政に今後どのように託していくか。

町長 昭和40年、地域の強い思いで町民の出資をいただくなかで設立をしたスキー場である。地域の方々の思いを忘れることができない。そんなことから火を消すなどの思いで今日まで至ってきた。子どもたちが大きくはばたいている。子どもたちの育成の場として、今後の運営に期待をするものである。

農振法と町の振興について

町長・市町村に裁量権がほしい

大平 謙一 議員

農地の転用が なぜできなかったか

問 町は宅地転用できると見込み下水道工事と公共施設設置工事をおこなった。なぜ除外できなかったのか。

町長 農振法は農地を宅地化から守る為の法律であり国の基本方針は宅地に隣接する以外は原則認めない方向であるが農地であってもより有効に活用したい事情が発生した場合、市町村に裁量権を認めても良いのではと思っている。

問 転用許可がでないうちになぜ工事をしたのか。



もりたてよう みんなで!

建設課長

早く家を建てたいと話があり地域振興課に伺った所かなりの見通して大丈夫そうだと聞いた中で工事をおこなった。

農業委員会

今回の件は1月の総会で審議した宅地と近く農業委員会としては許可した。

地域振興課長

建設課との横の連携が不十分だった。

町有施設の今後の 支援について

問 町有施設の支援は今後どうするの

か。特にグリーンピアは津南高原開発の社長が亡くなった。運営は大丈夫か。

副町長 株津南高原開発と光善会の2法人と契約している。運営については新代表に引き継がれると確信している。契約については光善会グループとのもので光善会が責任を持つので修繕については、大規模修繕でも利用者負担となっていて町負担はない。新代表については相続などの問題で遅れているが前代表はグリーンピアに熱い思い入れがありその精神は新代表に引継がれるものと確信している。

津南農業の今後について

町長・中山間地域総合整備事業で安定

高橋 孝男 議員

津南町は大規模農業が 可能・今後は

問 津南町は農地の拡大により、大規模農業が可能となった。町長は町長職務を通して今後の課題はどうか。

町長 中山間地域総合整備事業で水田畑を整備した。コストの低減や食味の向上、日本一高い米の生産が可能だ。又、気象条件を生かしたユリ栽培や消費者の求める野菜栽培、また農業を六次産業化し儲かる農業が可能である。

津南醸造の今後は

問 地元酒蔵2社が発展することは、津南の知名度を上げることになる。町長は1社について、「自分の任期中には」と議会答弁していたが、その後についてどうか。

町長 酒蔵設立の理念を大事にし、経営の安定化を図るため、外国への販売戦略も模索したい。任期中には出資者の理解が得られるよう努力し、結論を出したい。

少子高齢化、人口減少に 伴う今後の定住策は

問 福祉の充実、建築の仕事や雇用も生まれるが、現在考える方策についてどうか。

① 限界集落の出現によりコミュニティが維持できない可能性が生じた。
② 家族機能の減退による生活維持困難者の増加と家族生活の弱体化が予想される。
③ 人口の減少と高齢化の進展に伴い、介護サービスの不足が考えられる。

このことから定住人口増対策が緊急の課題である。

町長 人口減少は残念である。限界集落を救うため都市から若者をという方策、支援の輪の構築、福祉サービスの充実、施設整備も必要であるが、町単独では困難性があり、民間活力等も必要になってくる。



沖ノ原に広がる広大なアスパラ畑

わさびの産業化に研修生派遣を

町長・意欲ある方が取り組みなら支援・協力をする

滝沢 茂光 議員

生産者育成に協力を

問 静岡県伊豆でわさび栽培で成功された鈴木丑三氏は龍ヶ窪の水なら必ず良い物ができる、又他の湧水も活用できる所も多いと見ており、生産者育成についても研修生として受け入れに協力したいと話されている。自然環境の良さも強くアピールされるが苗木の里等にも活用できる。町としての協力、支援について伺う。

町長 意欲ある方が望むなら協力も支援も行いたい。

失われゆく 里山自然景観の再生を

問 近年自然景観花木類、中でもつつじ類が少なくなったが、再生をすべきと思うが、いかがお考えか伺う。

町長 花木等の盗掘もあるものと思われるが実態は不明であり範囲も広すぎずパトロールも行きとどかない。地域全体の監視が必要と考える。又、里山全体の再生には農林水産省の交付金事業もあり、受益者等で取り組むべき課題と考える。

問 つつじ類はさし木も容易と思うの



津南はわさび栽培の適地

で地域の技術を持つ方に協力をいただき進める考えはないか伺う。

地域振興課長 そこまで考えていない。地域で取り組んでほしい。

畜産振興に飼料米対策を

問 飼料価格の高止まりと販売価格の低迷で価格補てん基金も底をついた中、自給率向上の面から飼料用米、米粉用米の補助金が高額となっているが、輸送費及び加工費用の負担額に不明確の面もあるが助成し活用を誘導してはどうか伺う。

町長 販売価格が不透明であり、又実需者との契約も必要。本年度は町内の需要を前提に試験栽培に取り組む。

売れ残る米22年産米生産は

町長..転作面積の達成をお願いする

大島 知美 議員

地域経済が危ない、 行きついた米政策

問 魚沼産米は経済不況、生産過剰により売れ残っている。21年産の販売状況は昨年同月対比の70%。魚沼の生産量は約80,000t、単純計算をすると24,000t売れ残る可能性がある。県間調整一本やりの農政がとんでもない事態を作っている。そこで22年産米生産の考え方は。

町長 米価の安定維持のためにも転作面積の達成をお願いしたい。

問 最近の津南町経済を考えると収入確保は必須条件に思われるがいかがか。

町長 「明日から米価が下がるから保障しましょう。」という簡単なものではない。全国的な米余りの中、その辺を考えた国策があつてしかるべき。

問 かといって町が何もしないというのはいかがなものか。

町長 農家の戸別所得補償を町単独でやれということか。

問 そうではない、津南町にとって米の収入は町全体のもの、収入減は地域経済が危なくなってきた。

町長 あたかも明日、町が崩壊のごと

きに聞こえる。大きな観点は、国・県政に頼むべき部分はたくさんある。米価が下がるのか、秋にならないとわからない。米価が下がることを前提で考える時期ではない。

問 下落はもうすでに始まっている。町民のあたり前の生活、夢のある政策、これを更にお願ひしたいと思うがいかがか。

町長 町政をともども築いていただきたい、またご支援賜りたいとお願ひ申し上げる次第である。



ガンバレ津南農業!!

津南病院の今後の展望を

町長..町立病院の継続が一番

藤ノ木 浩子 議員

命と健康の核、 一丸となって守るべき

問 この10年間で津南病院は大きく変わった。その要因は国の医療費抑制政策にあり、公的病院を対象に縮小再編を進め、病院を減らす、ベッドを減らすという医療構造改革が進められてきたことにある。診療報酬の引き下げや地方交付税の引き下げで全国の自治体病院が経営悪化となっている。医療改革の中でも町立病院を維持・存続してきた努力に感謝したい。今後も津南病院を住民、病院職員、行政も一丸となつて守るべきと思うが、今後の展望をどうお考えか伺う。

町長 医療制度の改変等により今日の医療現場の姿があるのはご指摘のとおりだ。医師不足等により、とりわけ過疎地域の病院は維持・存続が危機的な状況に陥っている。加えて診療報酬の見直しも過去10年マイナス改定ということから、病院経営は極めて難しい課題である。地域医療の崩壊は、地域そのものの崩壊につながりかねない。私は町立病院が町民の命の安全、安心をなんととしても守り続けるという基本的



町民の病院

な立場を堅持し、強い信念のもとに貫いて取り組んできた。病院の目標は「寝たきりゼロをめざし、認知症を予防し、健康長寿を伸ばすこと」また健康長寿日本一をめざす町民ぐるみの健康づくり宣言を行い、町民、病院、行政一体となつて、すこやかに育ち、元気で達者な町づくりの取り組みを強化している。今後一番継続してほしいのは、津南病院である。そして、町民の健康を守っていくことが重要だ。

東京電力西大滝ダム水利権更新について

町長..今年12月31日が期限

福原 照男 議員

信濃川発電所水利権 更新と電源立地交付金は

問 信濃川発電所を含めた電源立地地域対策交付金は町財政を支えている。現制度は今年で終了する。その後はどうなるか。また、今年度が水利権の更新年というが、どのようになっているのか伺う。

町長 電源立地地域対策交付金は現政権下での事業仕分けであつたが、水力発電については削除されなかった。しかし、国に対しては今後も一層の要望をしていく。水利権更新については、今年12月31日が期限である。東電とは



流れ下る大河信濃川

長い付き合いであり、お互いの信頼関係のもと維持流量を提言し、水利権の更新にあたる。

津南駅の待機線設置 について

問 JR飯山線は4月から長野支社と新潟支社と県境で管轄が変わるといふ問題はないのか伺う。

町長 十日町駅より助言をいただきながら問題点は解決していく。

問 津南駅に待機線設置を要望しているが見通しを伺う。

町長 今すぐにはいかないが、十日町と森宮野原間に列車のすれ違いができる駅として、また津南の観光面からも引き込みが可能であり、長い目で運動を続けていく。

エコキャップ運動の 取り組みについて

問 エコキャップ回収運動で世界の子ども達にポリオなどワクチンを贈ることとはどうか。

町長 環境教育面では大切なことだ。町内小売店等では実施している。町としては協力していく。

特養ホーム施設整備は待ったなしだ

町長..国県に強く要望すべきものだ

大口 武 議員

高齢者の強い不安を 解消してほしい

問 高齢化が進み必然的に特養ホーム入所の待機者が増加している。「保険あつて介護なし」と言われるほど高齢者の不安は強い。施設整備は待ったなしの状況であると思うが、国や町はどうあるべきと考えているか伺う。

町長 恵福園なかつを含めた特養ホーム入所待機者は2百人余りとなつており、施設整備の必要性は痛感している。全国の自治体にはそれぞれ固有の事情がある。当町では高齢化率が36%を超え、自然条件は日本有数の豪雪地帯である。高齢の世帯では苦痛を伴う厳しい期間がある中で介護が必要な高齢者が安心して入所できるように、特養ホームも整備しなければという実態を国が理解を示さなければ誠に残憾である。

自治体の実態に沿った福祉サービス提供が可能となるよう、国県に強く要望すべきと考えている。

住民自治、国体自治の 確保は民主主義の柱

問 自公政治に抗しての“自立の選択”

について現時点でどのようにお考えか伺う。

町長 18歳以上の町民の想いと議会の想いとも一致して自立を選択したもので民主主義に則つたものである。新潟県は突出して合併が進められたが、自立を選択した10町村の首長はこぞこの選択は間違つていなかったと言っている。今後とも自立を図ることが重要で、そのことよってきめ細かな住民サービスの提供が可能になると思っている。



福祉施設の一層の整備充実が望まれる

条例改正

3月議会で条例改正があった中から、町民の皆さんの暮らし等に関係の深いと思われる主な内容についてお知らせします。

◆津南町立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について

要旨 平成24年から上郷中学校が津南中学校に統合することの改正（賛成多数で可決）

◆津南町子どもの医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定

要旨 今までは、入院・外来とも12歳までが医療助成の対象となっていたが、これを入院・外来とも15歳まで対象を拡大した。（全員賛成で可決）

◆津南町特別職の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定

要旨 昨年、景気低迷の折から暫定的に6月の期末手当支給割合を1000分の160から1000分の140に減ずる措置を講じたが、この率を暫定措置ではなく条例改正した。（全員賛成で可決）

◆津南町議会の議員の報酬及

び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定

要旨 内容は津南町特別職の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定と同じ。（全員賛成で可決）

◆津南町牧場条例の一部を改正する条例の制定について

要旨 町営の高野山牧場に入牧させる牛1頭1日につき400円を650円に改正するもの。（全員賛成で可決）

請願陳情意見書

次の請願が提出され、採択した請願については意見書を国へ提出しました。

◆350万人のウイルス性肝炎患者の救済に関する意見書採択の請願

要旨 国がその責任を認めたB型C型肝炎に感染した患者の方々に肝炎対策基本法など速やかな必要措置を講じて実行に移すよう求める。
結果 全員賛成で採択し、意見書を提出しました。

◆最低賃金法の抜本改正と安定雇用の創設、中小企業支援策の拡充・強化を求める請願

要旨 国内で大きな問題となっている貧困対策や不景気の波をともに受けている中小企業への支援策のた

め、最低賃金法を抜本的に見直し労働者の雇用維持や中小企業支援策の拡充を求める請願

結果 全員賛成で採択し、意見書を提出しました。

◆米価の下落に歯止めをかけ、再生産できる米価の実現を求める請願

要旨 戸別所得補償単価をもっと引き上げることやミニマムアセス米の輸入を削減し米価の下落に歯止めをかけ、価格と需給を安定させることを求める。

結果 全員賛成で採択し、意見書を提出しました。

◆農業農林整備事業（土地改良）予算の確保に関する請願

要旨 新しい民主党政権下で土地改良予算が大幅に削減され、特に過疎地・中山間地を抱えている市町村は今後の営農、集落の継続に不安を抱えている。しっかりと予算確保するよう求める。
結果 全員賛成で採択し、意見書を提出しました。

◆国民健康保険に対する国庫負担の見直し、増徴を求める意見書を全員一致で国へ提出しました。

◆特別養護老人ホーム、小規模特別養護老人ホームの整備・充実を求める意見書を全員一致で国へ提出しました。

議会報告会開催のお知らせ

議会報告会を次の日程のとおり町内8会場で開催いたします。

議会報告会は今年で3回目となりました。

住民と協働の町づくりを進めるにあたり、町政の情報や議会活動の状況を地域に出向いてご報告、ご説明し、議会活動に対するご批判ご意見、さらには町政に対するご提言など直接お聞かせいただき、今後の議会活動や町づくりに反映させるため、地域と共催で開催させていただきます。

特に今回は皆様から、議員定数と議会を活性化させるための具体的なご意見、ご要望をお聞かせ願いたいと思います。

なお、当日はこの「議会だより178号」をご持参ください。



昨年の議会報告会の様子(大井平集落)

平成22年「議会報告会」開催日程

◎は班長

開催期日	時間	会場	出席議員
4月27日(火)	午後7時30分～9時まで(延長30分)	正面公民館	◎伊林康男、福原照男、吉野 徹、恩田 稔
		相吉公民館	◎草津 進、藤ノ木浩子、根津勝幸、中山 弘
		太田新田公民館	◎大平謙一、河田強一、藤木正喜、栗原洋子
		加用公民館	◎大島知美、大口 武、滝沢茂光、津端眞一
4月28日(水)	午後7時30分～9時まで(延長30分)	羽倉公民館	◎伊林康男、福原照男、吉野 徹、恩田 稔
		陣場下公民館	◎草津 進、藤ノ木浩子、根津勝幸、中山 弘
		押付公民館	◎大平謙一、河田強一、藤木正喜、栗原洋子
		中深見公民館	◎大島知美、大口 武、滝沢茂光、津端眞一

例) 参集範囲は正面公民館の場合、正面・上段・十二ノ木・卯ノ木・駒返り・貝坂・下船渡本村等の方々より会場へ足をお運びください。

議会事務局長人事

お世話になりました



村山 昇

新

よろしく お願いいたします



磯部 義栄

いろいろなことと連続で、あつと言う間の三年間で、一問一答方式の導入、議会報告会実施、全員協議会の法定化等、議会も活性化のために真剣に取り組んでいます。議場音響のデジタル化で音声の配信も可能となりました。町民の皆様からもっと関心をもっていただける議会になるよう期待しています。寂しい欠員状態から新たに四人の議員も加わります。議会の議論が活発化して政策提言の充実が図られ、町勢進展の一元となることを祈念しています。

議会事務局長という重責を担いました。どうぞよろしくお願い申し上げます。さて、津南町は平成の大合併に組せず、すでに1回目の自律計画から5年が経過し、2回目の町づくり計画が住民の皆さんと協働で策定されました。町づくりはもちろん住民が主人公のわけですが、住民・行政そして議会がともに力を合わせてまい進することが重要かと思えます。微力ですが、円滑な議会運営に一生懸命務めさせていただきます。ありがとうございます。

シリーズ・町民の声 **私もひと言**



三箇小学校閉校に思う



三箇小学校PTA会長
樋口 禎弘さん

平成22年3月25日三箇小学校最後の卒業式が行われ、5人の卒業生が三箇小学校を巣立っていきました。雨の振る中、大勢の三箇地域の方がお祝いと、最後の卒業式を自分の目に焼き付けようという思いでご参加くださいました。

120年間三箇地域を見つめ、地域と共に歩んできた三箇小学校。平日、小学校に行けば当然のように聞こえた子供たちの元気な声や、笑い声。チャイムの音は4月からは聞こえません。きっと寂しく思えるでしょう。しかし、今回のことは子供たちのことを考え、地域で出した結論です。子供たちには一日でも早く学校に慣れ、津南小学校の大勢の同級生の中で、じぶんらしさを

発揮して欲しいと思います。

数年後の三箇地域はどうなっているのかわかりません。しかし、学校が閉校したから地域が衰退した、過疎化が進んだと自分たちで感じないためにも、今こそ地域を新たに考える時のような気がします。子供たちから三箇が大好きと言ってもらえるように、私も微力ながら行動したいと思っています。

最後の新潟県リコーダーコンテストで金賞を獲得し、全日本リコーダーコンテストは、念願の金賞には届きませんでした。銀賞を獲得できました。

今年一年、子供たちに本当にたくさん感動をもらいました。ありがとう。そして今までありがとう

三箇小学校。

ありがとう、そしてさようなら…



津南原小学校PTA会長
藤木 勉さん

閉校と決まり、何かやるせない気持ちもあったが、子供たちのこれからのことを考えると仕方ないことだと思った。新学期になり、入学式、PTA行事等始まったが行事を滞りなく終わらせて行くだけだった。子供たちも今までどおり普通に感じられた。どの行事も「最後の…」が付いていたが、実感はなかった。閉校式典はインフルエンザで子供たちがいなくて寂しかった。卒業式祝辞は最後まで閉校はあえて言わなかった。言うとう自分が泣いてしまうような気がした。離任式ではほとんどの子供たちが涙を流し、周りの人も目頭を熱くしていた。子供たちも先生方の挨拶で本当に最後の別れの時を感じ取ったのだろう。

3月31日津南原小学校最後の日

ある。長い歴史を閉じる最後の日でもある、午後4時過ぎ誰が声を掛けた分けでもないのに在校生、中学生、高校生、保護者そして地域の方が集まってきました。教職員の皆さんに「長い間ありがとうございました」と自然に声を掛けていました。学校に対しても皆さん本当になんとも言い難く心の中で「ありがとう、さようなら…」と言っているように思えた。玄関も閉められ皆さん帰る後姿はなんとなく悲しそうでした。

学校は地域の方々にとって、子供と触れ合える唯一の場所であることをつくづく感じさせられた。

ありがとう！津南原小たくさんさんの思い出や歴史を刻んでくれて…

さようなら津南原小学校。

編集後記

今年も大河信濃川に鮭の稚魚が、保育園児から小学・中学生・漁業関係者の手によって数百万匹が放流されたと聞く。三年後にどれだけの遡上があるだろうか。守らなければならぬのは、流域住民として水量はもとより、水質が問題となる。信濃川上流部千曲川において、水質異状事故(農業や油の漏出)による浄水場取水停止が昨年数回あったようだ。一人一人の環境を守るという意識があつてこそ素晴らしい自然を活かし、育てることが出来るもの。

子育ては「いち家族」の責任と片付けないで地域であたたく見守り、励ましあい育ててゆきたいものである。親の手を離さず泣いている園児・重たそうなランドセルを背負った小学一年生。春爛漫の光景である。(福)

